研究課題	３分間動画で考えを伝える。
副題	～修学旅行班別研修のデータを題材に～
キーワード	表現力・思考力・判断力，動画編集作成，アクションカメラ，まとめ学習，
学校名	**広陵町立真美ケ丘中学校**
所在地	〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中２丁目 17 番 32 号
ホームページアドレス	http://www.asm.ne.jp/~mami-jhs/

１．研究の背景

本校は奈良県広陵町のニュータウンにある学校で，生徒数は約480名である。パソコン室がありデスクトップ PC が 40 台設置され，各授業や総合的な学習の時間等で利用している。生徒が使える校内 LAN や無線 Wi-Fi の環境はなく，今後タブレット PC 等が導入予定である。

修学旅行は，生徒がもっとも楽しみにしている学校行事の一つである。修学旅行は，泊をともなった校外の学習活動で，近年は団体での行動から班別活動へと変化してきている。この班別活動は，生徒に主体性を持たせるため，行動計画を立案，実施させることに主眼が置かれることが多い。本校の修学旅行の班別研修でも，研修と銘打っているが本来の趣旨に反して，班別行動だけに主眼が置かれ，内容が物見遊山になってしまうことも多い。実施前の行動計画には，期待感もあり，集中して取り組めるが事後の学習にはそれほどの期待感はなくなってしまい，まとめの報告書を完成しさえすれば良いというように，作りっぱなしになってしまうこともある。

本学年は，学年全体での取り組みとして総合的な学習の時間を主に，これまでに次のようなまとめ活動を行ってきている。1年時には，個人新聞による校外学習の報告，壁新聞によるバリアフリー・ユニバーサルデザイン調査報告を行った。この調査報告では，予選をおこない代表を学年全体の前で発表する2部構成にした。第2部では，紙媒体の壁新聞から，プレゼンテーションソフトを用いた形式に変更した班もあった。2年時には，壁新聞による校外学習調査報告や，職場体験学習報告会をプレゼンテーションソフトを用いておこなってきた。また，数学や理科において，自由研究なども長期休業中に取り組んでおり，その発表では，パワーポイントを用いたものも見られた。技術家庭科の授業では，ワード，エクセル，パワーポイントの基本操作を学習はしている。しかし，動画を使ったものはない。

生徒たちは，テレビ番組やCMなどの放送の視聴はもちろんだが，さらにインターネットによる Youtube，Instagram などを介して動画に触れることが非常に多くなってきている。特に最近では，Youtuber といった新たな存在が注目を集め，生徒たちの関心や注目度も高い。さらに，テレビは見ないが Youtube は毎日見ているという生徒も増えてきている。

２．研究の目的

この物見遊山班別行動からの脱却を目指し，自ら主体性をもっておこなう班別研修とするため，今注目されている動画による発表という手法を用いる。

生徒たちはこれまでに，コンパクトデジカメを使った静止画の撮影経験はあるが，アクションカメラ等を使って動画の撮影はない。東京での班別研修では，アクションカメラ等を使って動画撮影する。実際に体験や調査している時に撮影できるアクションカメラのメリットを活かして記録し，体験等が伝わる素材を撮影させたい。そこで得たデータを3分間程

度の動画（番組）を作成し，報告として発表者の考えを発表させる。

また，動画編集，作成には，本校パソコン室にあるデスクトップ PC で Windows Movie Maker を用いて行う。動画には制作者の意図が大きく反映されること，映像効果によって伝わり方が異なること等に気づき，表現する力を伸ばしたい。動画によるまとめ発表を行うことで，意図を持った主体的な活動にし，さらに人に伝えることを目的とする。

３．研究の経過

3年生の5月に，二泊三日で予定している修学旅行に焦点をあて，生徒たちが主体性をもって取り組め，そこでの活動がより充実したものになるように計画を立て，実施した。

修学旅行に生徒の主体性を持たせるためには，自ら参加する意識を高める必要がある。自らつくる修学旅行にするためには，自分達で決定できる自由度を持たせる必要がある。その自由度を確保するためには，準備に時間をかけなくてはならず，本研究を達成するために，前年度から行う必要があった。そのため，前年度の 12 月からの経過を示す。

経過①(前年度 12 月から3月)

時期	内容	実行委員	生徒活動
12/5	修学旅行概要説明		日程等の概要を確認 生徒実行委員募集
12/7	実行委員会決定	組織決定	
12/8	班別研修概要説明		動画にてまとめを行うことを伝達 見本動画視聴
12/19～1/9	東京方面事前調査	各係原案作成	各自班別研修行先調べ (インターネット，情報誌等)
1/16	実行委員会②	各係原案提出 (班編成方法等)	
1/23	班別研修の男女班決め	班編成司会進行	男子２～３名，女子２～３名の班を学年全体で編成
2/9	研修班決定	希望行き先による抽選実施	男女班の希望行き先ごとに研修班を決定
2/13～23	班別研修計画検討	行先候補地リストを作成	各研修班で行動計画作成

動画によるまとめを伝えると，期待感が膨らんだ生徒もおり，修学旅行が楽しみになったとの声が多く聞かれた。反対に PC の操作に不慣れな生徒は，動画作成に不安を感じたようであった。また，実行委員は人数に制約をつけずオープンで立候補者を募った。立候補は男子２名，女子 19 名であった。その中から，班別研修を４名，班編成を４名で担当した。特に班別研修担当となった４名は，東京方面の行先候補リストを作成するなど積極的に活動した。

経過②(本研究)

時期	内容	実行委員	生徒活動
4/18	研修班紹介素材撮影		研修班紹介動画作成のための素材撮影
4/19	KCN へ講師依頼 動画講座日程打ち合わせ		
4/23～27	班紹介動画編集		研修班紹介動画作成
4/24	動画作成講習会		テレビ番組作成の概要, 撮影方法, ナレーション，編集について受講
	班紹介動画視聴		各班紹介の動画を視聴
5/16～18	修学旅行	アクションカメラを代表し使用	5/17，8:30～15:30 班別研修
5/25	教員向け動画講座		
6/1～	まとめ活動		研修班によるまとめ動画，冊子の作成
7/17～19	まとめ動画編集		各研修班による動画作成最終調整
8/31	まとめ動画コンテスト		各学級にてまとめ動画視聴
12/18	表彰式	班別研修担当より表彰状授与	表彰班代表が賞状，副賞を受領

まず，動画作成が初めてであり，Windows Movie Maker の操作方法を習得するため，それぞれの班紹介の動画を作成した。主な内容は班のメンバー紹介で，その伝え方を動画，静止画，テロップ，BGM を用いて伝えるというものである。できた動画は，修学旅行本番前に視聴し，その後他の班の内容を見た。ただ「行ってきます」や「メンバーは〇〇です」ではない表現を見て刺激になった様子であった。

班別行動計画ができ修学旅行本番が近づくにつれて, 何をするのかということを具体的に想定できるようになってきた。そこで，実際にテレビ番組を制作しているディレクターを講師に招聘し動画作成講習会をおこなった。講師を，在奈良の地域テレビ局の近鉄ケーブルテレビネットワーク株式会社(以下 KCN)に依頼したところ，快諾頂いて実施できた。

動画作成という初めての取り組みに，生徒は何をどうすればよいかと手探りの様子であった。そこで実施できたこの講習会で，内容(伝えたいこと)の重要性，撮影の基本，編集のポイントを聞くことができ，不安感の軽減につながった。

アクションカメラ 10 台を実行委員のいる班と，希望者の班に配布し，撮影時の操作方法について教員でレクチャーした。特にアクションカメラ使用については，撮影できる映像も新鮮なようで，どのような映像を撮影できるのか班別研修の行程を見直したり，点検したりと準備を入念に行っている様子が見られた。

教員向け動画講座も，生徒と同様に KCN より講師に来ていただき実施した。教員からは，指導のポイントとなる部分，プロの目から見る番組についても聞くことができ好評であった。また，内容の中で特に伝えたい事を以下に伝えるか，どのように表現するかも確認した。

本番の撮影はそれぞれが楽しみながらおこなえた。さらに，どのような記録をすれば最終的に伝えたいことになるのか, 物見遊山な活動ではなく何を伝えたいのか, それを探す等, 目的意識を持った活動になっていた。

帰校後のまとめ活動は，動画と冊子それぞれに同じ研修班内で分担しおこなった。動画は１班最大３分間，冊子紙面は１班 A4，１ページとした。

動画編集作業はパソコン室の仕様から各班より１名が行った。時間をかけたい生徒は，データを持ち帰り自宅で作業した。動画編集作業は１名だが，他の生徒はその内容については絵コンテや，追加の素材撮影，演出等を行い充実した内容になるように協力した。しかしパソコン室が離れているため作業効率は悪く，編集作業担当生徒の負担感が大きくなった。冊子作成については，これまでの取り組みもあり慣れた様子で紙面を進めた。実質冊子作成には３～４時間，動画作成には６時間程度を要した。

まとめ動画コンテストは，全 32 班の合計で 67 分 15 秒(平均 100 秒／１班)を順に視聴し，評価も行い２時間で行った。まとめ動画は，静止画とテロップ，動画と音声，動画と静止画と組み合わせは様々であった。

コンテストの評価，審査は生徒，教員，KCN より２名招聘し行った。評価の観点は，内容のわかりやすさ，おもしろさ，表現の工夫の３点についてそれぞれ５点満点で行った。審査については３観点の合計の上位３班に順位をつけ，生徒分を１位３点，２位２点，３位１点で合計した。教員，KCN 審査員も同様に集計した。表彰についてはすべての得点が多かったグランプリ１班，生徒の支持を集めた生徒賞１班，教員の評価の高い教員賞１班，KCN 審査員が評価した KCN 賞２班を選出した。受賞した班には，表彰状と KCN より副賞の３色ボールペンを授与した。

経過③(次のステップ)

時期	内容	実行委員
2/27	思い出ビデオ概要説明	日程等の概要を確認
2/28	素材選定 ビデオ編集	３年間の写真，動画データより選定 ビデオ編集
3/1～11	素材撮影 ビデオ編集	思い出ビデオの冒頭，終末用素材撮影 ビデオ編集

動画作成技術を習得していることを次につなげる段階として，自主制作の動画で３年間を振り返る「思い出ビデオ」を有志で作成した。当該学年が３年生であるため，受検等で全員では．行うことはできなかったが，Windows Movie Maker の操作を習得しているため，素材を精選し，新たに冒頭や終末部分を作成するなど大変手際がよく，２分程度の動画であれば，１時間もあれば編集し完成にまでいたることができた。その内容に目的を持たせることで，見る側に立った視点での作成も十分可能であることがわかり，これまで紙面やプレゼンテーションでの発表手法しかなかったが，新たな表現の場として活用できることがわかった。

４．代表的な実践

４～６名の１班で１つの動画作成において担当する生徒の実態は，大きく①～③に分けられる。それぞれの生徒の実践について報告する。生徒全員に動画作成を課すのではなく，班単位で行ったことで，生徒相互の意見交換もあり，全班が発表することができた。

①動画作成に興味を持っており，パソコン操作に不安がない

当初から興味が高いため，どのような内容にするのかというところに着眼し作業を進めることができていた。特にどのような形が完成なのかを考え，必要な動画素材は何か等を計画して進めることができた。それは修学旅行当日の班行動中にも関係していることがわかった。ただ観光して見るだけはなく，「体験したことをどう

伝えるのか」という視点があった。そのため，どのような素材を撮影するのかというところまで考えて研修の時間を過ごせていた。

帰校してから動画の編集では，「このような作品にしていこう」という編集係生徒の工夫が存分に発揮されて全体としては非常に完成度の高い作品が多かった。ただ係生徒に依存している部分があり，他者視点を十分に意識されず，表現の工夫は見られたが，おもしろさ，わかりやすさが不十分な作品もあった。

②動画作成に興味はあるが，パソコン操作に不安がある

パソコン操作の不安感を払拭するために，編集係生徒が班員に相談する場面が多く見られた。これによって編集過程で複数の視点が入った作品になっていた。そうなると，こんな素材が必要ということに班全体として気づくことができる。修学旅行当日にも，協力的な姿勢が見られ，体験しているところの出演者になる等，活動が観光に終始しているだけになっている生徒がいない状況がつくりだせた。

帰校してから動画の編集では，「これで伝わるかなぁ」「追加で撮影しよう」という協力体制ができ，様々な相談の中で作品が作られていた。内容のわかりやすい作品が多かった。

③動画作成に興味がない

動画作成をどのように進めていくのかままならない部分が当初から見られた。班全体としても協力できておらず，静止画とテロップ，BGM という形でスライドショーになった紹介動画になっていた。修学旅行当日では，体験を記録しておくことは意識できており，自分達の活動を撮影したり，ノートしたりして班別研修を終えた。

帰校してから動画の編集では，当日にやったことを時系列に並べ，少しの動画と静止画とテロップ，BGM という形の作品が多かった。ただ静止画を並べるだけなく，こんなことをしたという行動記録としてはわかりやすい作品が多く，テロップでその体験の熱意も伝わってくるものもあった。結果として，評価も高いものもみられた。

また，アクションカメラを持たせた班は，効果的に体験を撮影し，それをまとめにも活用できており，インタビューや食べ歩き，工芸体験など動きのある素材が撮れていた。

総括すると，何を見たかという部分ではなく，見た後にそれをどのように見せるかに注目した作品がやはり評価が高く，他者視点を編集作業中に見いだせると完成度の高い作品となった。パソコン操作の不安感や，動画作成への興味が作品の表現に制約を与えないことがわかった。

５．研究の成果

今回の修学旅行のまとめでは，動画と冊子で行った。それぞれのまとめについて生徒にアンケートを実施し，動画によるまとめが，班別研修に及ぼした効果について報告する。実施したアンケートの項目はあとの表に示す。

①事前準備については，動画と冊子について大きな差は見られないが，冊子についての方が若干準備できたようで，これまでのまとめ手法を理解しているため準備もできたのではないかと考えられる。

表

①修学旅行前に動画・冊子まとめのために準備はできましたか。
②修学旅行当日の班別行動で動画・冊子まとめについて考えていましたか。
③動画・冊子のまとめ作成作業は大変でしたか。（係，係ではない）
④まとめ動画・冊子の内容は楽しめましたか。

それぞれの項目について，次の指標で回答させた。

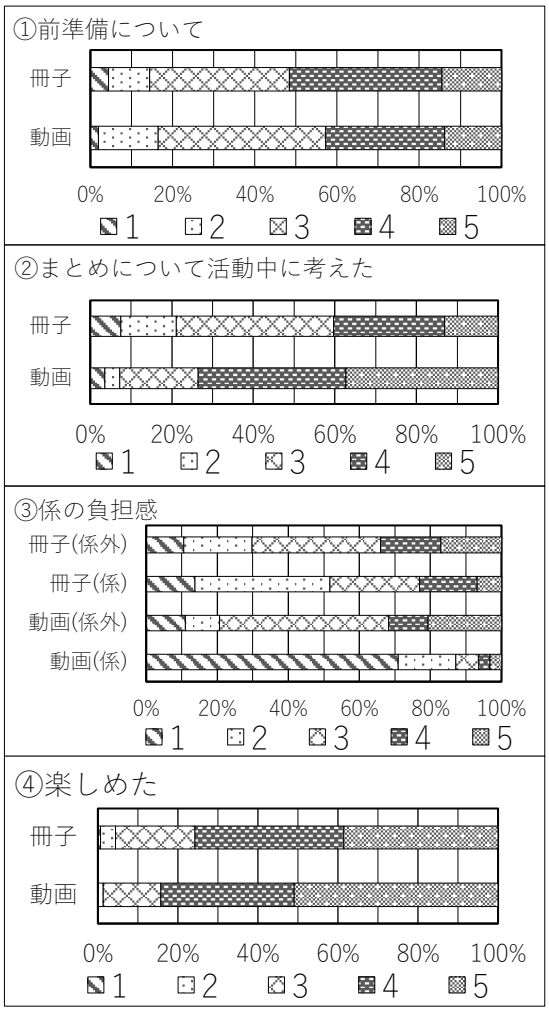
1	2	3	4	5
否定的	やや否定的	どちらでもない	やや肯定的	肯定的

②活動中に考えたかについては，動画 74%，冊子 40%と大きな差が現れた。動画まとめは，現場で出演や撮影をしたり，班全体の体験を記録すること等全員の協力が不可欠になっていることがうかがえ，多くの生徒の意識が高まっていることがわかる。冊子の場合，代表者が写真を撮り，パンフレットを持ち帰ることが基本となり，関わる生徒に限りが出ることとなる。

③係の負担感については，係ではない生徒は感じていないことがわかり，冊子の係生徒は，やや負担がある(52%)と感じており，動画の係生徒がとても大きい負担感がある(87%)ことがわかる。係になれば負担感はあるのは当然だが，これは動画編集作業という初めての作業への戸惑いや操作の不安，またパソコン室の仕様上入室生徒数が限られることなどがより増大する原因であると考えられる。

④まとめを楽しめたかについては，どちらも楽しめたがより動画のほうが高いことがわかった。

このアンケート結果より，動画によるまとめ発表という手法を用いることで，修学旅行の物見遊山班別行動から脱却し，自ら主体性をもっておこなう班別研修とすることができたといえる。



6．今後の課題・展望

初めての動画によるまとめという手法を，修学旅行の班別研修に活用し，操作の慣れがより高い表現力・思考力・判断力につながることは示唆された。経過③では，素材を活用し伝えたいことを明確にすればシリアスからコミカルまで様々な表現ができ，さらに他者視点を持つことによって伝え方の工夫へとつながることが期待できる。

7．おわりに

アクションカメラ等の新しい機器の活用が，生徒の新たな表現につながることがわかった。